

願い 提言

私は現在、南関第三小学校で特別支援教育支援員をさせていただいています。支援学級の子どもだけではなく、困り感のある子どもをサポートするのが仕事です。子どもは困っていることに自分では気づかないことが多いので、担任の先生と相談しながら学習面はもちろん、自信を持って学校生活が送れるようにとサポートしています。

私の中で、これまで子育て支援センターでの「子育て」に対する思い、社会福祉協議会の権利擁護事業での「人間らしく」という思い、中学校での心の相談員としての「寄り添う」ことへの思いなどが、どんどん膨らみ始めています。また、PTAや子ども会などの様々なボランティア活動は、「子どもを笑顔に」「困ったことを気軽に話し合える親同士のなかつくり」との思いで続けています。

数十年前に女性の社会進出が盛んになり、家庭の在り方が大



南関第三小学校

日高 香奈恵 さん

さんの力を借りながら一日一日を生きていかれます。私も微力ながら生活のサポートをさせていただく中で、人間らしく生きていくことを考えさせられました。仕事を変えるときも、「どうか皆さん

笑顔でいてください」と願わずにはいられません。今でも時々お元気かなあと気になります。ここでの出会いが「すべての人が笑顔で生きられるように」との思いを強くさせました。

中学校では心の相談員をさせていただきました。ここで出会う不登校の子どもたちの多くは、何かに傷つき、集団の中に入って行けず、そして親に迷惑をかけている申し訳なさで身動きが取れない、困っている子どもたちでした。そしてその背景には母親の困り感が隠れていました。私はできるだけ母親と親しくなることを心掛け、母親の話に傾聴し、大丈夫だと伝える

ことを繰り返しました。母親が心を置き安心感が生まれると、子どもは別室登校ができるようになり、上手く背中を押すことができ、受け入れ態勢が整えば、クラスに戻ることもでき、卒業式にも参加できました。

私が最初に関わった女の子との出会いは、母親が軽度の認知症で車を運転できなかったことから、担任の先生がしていた送迎を私が引き継いだことでした。彼女は、車には乗り込むものの一言も喋らず私を警戒しながら、やはり母親との関係を作ろうと母親の話を傾聴し、ついに家のこたつに入らせてもらい、彼女が淹れてくれたコーヒーを飲んだ感激は、今も忘れません。家にお金がないと町の医療費補助も知らずに虫歯を我慢していたので、「中学生までは病院代は無料だよ」と伝え、歯科に連れていきました。卒業式には母親も列席でき、彼女は

笑顔で、私は大粒の涙をこぼしました。その後の様々な手続きと入学式は、私が母親の代行をしました。高校生になり、誇らしい笑顔を見せていましたが、途中で退学したと高校の先生から聞きましたが、今も笑顔でいてくれることを願っています。

これまでの思いを軸に、四年前に週一回の「なんかん寺子屋教室」を立ち上げ、同じ思いを持つなかま六人と共に子どもたちを迎えています。メンバーの一人がおにぎりを食べさせたいと毎回持ってきてくれます。これが「とっぱ食堂」の始まりです。令和2年(2020年)2月に、一般社団法人「なんかん未来創造とっぱ隊」をたぐさんの仲間と一緒に立ち上げました。「とっぱ食堂」はその活動のメイン事業です。「とっぱ隊」は、すべての子どもが笑顔になる事業、安心して子育てができる事業を展開していく予定です。